

商工部 自動車・水素産業振興課
内線：3771、3779
直通：092-643-3448
担当：岩尾、西村

グリーン水素で成長する地域を目指し、
「北九州市響灘臨海部」を中心とした水素大規模拠点を構築
～拠点構築に向けた産学官推進組織を発足～

- 水素は、2050年のカーボンニュートラルの達成に必要なエネルギー源であり、近年、強靱な大規模サプライチェーンの構築と社会実装の加速化が求められています。
- 県は、グリーン水素で成長する地域を目指して、県内各地での水素の利活用を推進し、将来的な大分県、山口県のコンビナート等との連携も視野に入れ、北部九州における水素大規模拠pointsの構築に取り組んでまいります。
- 現在、国では、水素の利活用拠点をこの先10年間で8か所程度整備するとしており、これらの拠点を集中的に支援する制度が予算化される見込です。
- 今後、この支援制度を活用して、水素需給のポテンシャルが高い「北九州市響灘臨海部」を中心とした拠点の整備を目指し、県、北九州市、響灘臨海部で水素の利活用を目指す企業等で構成する『福岡県水素拠点化推進協議会』を発足します。

1 福岡県水素拠点化推進協議会（案）

<役員>

- ・ 会長：服部 誠太郎（福岡県知事）
- ・ 副会長：武内 和久（北九州市長）
- ・ 副会長：穂山 泰治（九州電力株取締役常務執行役員）
- ・ 副会長：木下 貴夫（西部ガス株取締役常務執行役員）
- ・ 副会長：中田 昌宏（日本製鉄株常務執行役員九州製鉄所長）
- ・ 顧問：佐藤 直樹（福岡県水素グリーン成長戦略会議会長）

<会員>

- ・ 水素関連の企業・団体（30社・団体程度）

2 福岡県水素拠点化推進協議会第1回総会

(1) 日時 令和5年5月11日（木）9時30分～11時00分

(2) 場所 リーガロイヤルホテル小倉 ロイヤルホール

（北九州市小倉北区浅野2丁目14-2）

(3) 次第(案)

- ①会長、副会長、顧問挨拶
 - ②「水素拠点推進構想」説明
 - ③経済産業省講演「水素関連施策」
 - ④意見交換(※)
 - ⑤写真撮影(役員のみ)
 - ⑥囲み取材(福岡県知事、北九州市長)
- ※④意見交換については、非公開となります。

3 拠点構築に向けた福岡県の強み

- (1) 風力・太陽光由来のグリーン水素や下水由来の水素、工業プロセスで生じる副生水素に加え、将来的なグリーン水素の輸入等、水素供給のベストミックスが図れる。
- (2) 両政令市を抱え、また自動車はじめ多様な産業が集積する等、大規模な水素需要のポテンシャルを有する。
- (3) 首都直下地震や南海トラフ地震等のリスクを踏まえると、エネルギー安全保障上の利点を有する日本海側最大の拠点となり得る
- (4) 全国最大規模の水素推進組織「福岡県水素グリーン成長戦略会議」や世界最先端の水素研究拠点「九州大学」等、情報収集からビジネス展開まで一貫した支援体制を持つ。

4 水素社会実現に向けた県・北九州市の取組

- (1) 北九州水素タウン(平成22～26年度、平成30年度～)
北九州市八幡東区東田地区において、まちなかに敷設した約1.2kmの水素パイプラインを活用し、水素ビジネスに乗り出す企業等の実証を支援
- (2) CO₂フリー水素製造・供給実証事業(令和2～4年度)
環境省事業を活用し、若松区響灘地区において、再エネ由来のCO₂水素を「つくり、はこび、つかう」といった一連のサプライチェーンを低コストで構築
また、若松区響灘地区に集積する太陽光発電・風力発電、市内の廃棄物発電について、余剰となった再エネ由来電力を効率よく使用するエネルギーマネジメントシステムを開発